

# アントレプレナーシップ研究会

## 研究会趣旨

日本語で「起業家精神」と訳される entrepreneurship は、市場環境でビジネスに携わる個人の経営能力や資質として捉えられる。20 世紀末に経済体制の転換を経た国々では、アントレプレナーシップを發揮する起業家の現れが、経済体制の移行の象徴とみなされることが多い。しかし、実際に経済活動が行われる個々のケースに着目すると、社会的枠組みやその中で結ばれる行為者同士の関係が、アントレプレナーシップの発動に大きく関わっていることが分かる。つまりそれは、起業家個人の内面（「精神」）に留まるのではなく、起業家と環境世界の相互作用の連鎖の中で捉えられる普遍的な現象であり、同時にその場の特定の状況から生み出されるローカルな特殊性を具えたものでもある。本研究会は、アントレプレナーシップが社会生活の様々な関係性に基づいて形成される状況を、起業家的な活動の個々の現場から照らしたことを目的とする。

日時：2016年2月27日（土）14:00～18:30

場所：北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター小会議室（401）

主催：科研費基盤研究（C）「ポスト社会主義国における経営主体のアントレプレナーシップに関する文化人類学的研究」

### 14:00-15:00 報告 1

#### 「チュヴァシの農業再編における協同組合と自営農家」 後藤正憲（SRC）

ソ連の集団型農場の体質を受け継ぐ協同組合と、個人経営による自営農家。一般的に互いに対立するとみなされる両者の間には、変化する社会情勢の中で特定の資本や専門知識を活用し、特定のネットワークを構築するという点で、共通のアントレプレナーシップが観察される。報告ではチュヴァシの事例をもとに、二つの経営に見られる傾向の相同性に焦点を当てる。

### 15:00-16:00 報告 2

#### 「家業と企業の間：モンゴル牧畜民とアントレプレナーシップ」 辛嶋博善（SRC）

1990年代初頭に社会主義体制が崩壊して協同組合が改変、解体されたモンゴルにおいて、多くの場合牧畜は家業として行われるようになった。こうした家業としての牧畜は、果たして企業と根本的に異なるものなのであるか。本報告では、相続、家畜の委託制度、牧夫という存在を手掛かりとして、家業と見なしうるような牧畜の中にアントレプレナーシップの萌芽を見出しうるのか検証したい。

### 16:15-17:15 報告 3

#### 「首長、組合、モラル：西アフリカ農村社会におけるアントレプレナーシップ」 佐久間寛（東京外大 AA 研）

世界システムの最周辺に位置し、非市場型の経済活動が盛んなアフリカ農村社会の状況をふまえるとき、アントレプレナーシップは、いかなる事象として捉えられることになるのか。問いの答えは、異なる制度を同時に生きる複数的な個のモラルから浮かび上がってくるのかもしれない。本発表では、ニジェール共和国西部の伝統首長制と協同組合を生きた男性数名に焦点をあて、経済主体にはかならずしも還元しえないアントレプレナーの位相を論じる。

### 17:15-18:15 報告 4

#### 「西太平洋の遠洋航海“社”：貝殻交易の歴史と革新から見るアントレプレナーシップ」 深田淳太郎（三重大）

メラネシアは、クラ交易に代表される島嶼間を結ぶ遠距離交易で古くから知られてきた。国境線や新たな交通手段の登場によって古くからの遠距離交易はその姿を大きく変えたが、しかし今なお行われ続けている。本発表では、パプアニューギニア、ラバウルで用いられる貝貨の原料となる貝殻の国境を超えた交易に注目し、近年そこで大きな変革を起こした一人の仲買人の活動をアントレプレナーシップという観点から考察してみたい。

連絡先：後藤正憲 goto@slav.hokudai.ac.jp